

20 家族構成の型別にみた家事労働の分担について

(奈良県宇陀郡曾爾村生活時間調査) (第2報)

奈良女子大学 関 志比子

奈良県曾爾村における農繁期の Time Study による生活時間調査 (昭和 32 年 6 月～10 月) に次いで今回は同村の農閑期の調査 (昭和 33 年 1 月～2 月) を行った。

調査対象及方法は前回と同様であるが労働強度の問題を考慮するため同時に記録した各労作についてエネルギー代謝率による消費エネルギーをも算出して農繁期との比較検討を行った。

結果としては総労働時間の減少に伴って労働量も減少されている。又家事労働時間は全体的には増加しているが労働力を提供する家族員の組合せによってそれぞれ異った結果を生じている。又男子の家事労働時間も増加しているが、これは労働強度の高い家事作業に対してである。